

垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイの即時飛行停止と撤去を求める意見書

日本時間 2015 年 5 月 18 日、米国ハワイ州オアフ島南東部のベローズ空軍基地内で垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイが訓練中に墜落・炎上事故を起こし、乗員 22 人のうち、20 人が重軽傷、2 人が死亡した。2012 年から米軍普天間基地に 24 機が配備されているオスプレイと同型機で、在沖米海兵隊は墜落原因がいまだ究明されていないにもかかわらず、県の飛行停止要求を無視し、翌日に飛行させたことは県民の気持ちを顧みない横暴な行為であり、断じて許されるものではない。

オスプレイは開発段階から死傷事故が相次ぎ、同機の危険性が改めて浮き彫りになった。オスプレイ配備をめぐることは、2013 年 1 月、配備断念を求めて県内 41 市町村の首長や議長らが署名した「建白書」及び民主的行動で日米両政府に訴えてきた。

本市においては、保育所、学校、病院の上空も昼夜を問わず危険な低空ヘリモードで飛んでおり、市民の不安は一段と強まっている。

よって、本市議会は、市民の生命、財産、安全を守る立場から、米軍及び関係当局に対し厳重に抗議するとともに、下記事項を速やかに実現するよう強く要請する。

記

- 1 事故原因の究明結果を速やかに公表し、米軍普天間基地配備の垂直離着陸輸送機MV 22 オスプレイの飛行訓練を直ちに中止・撤去させること
- 2 垂直離着陸輸送機MV 22 及びCV 22 オスプレイの日米両政府の配備計画を撤回させること
- 3 普天間基地を絶対に固定化することなく、一日も早い閉鎖・返還をさせること

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 27 年 6 月 26 日

沖縄県浦添市議会

宛先

衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣

沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使(沖縄担当) 沖縄防衛局長